

実 技 試 験

☆☆☆解答に当たっての注意事項☆☆☆

- ・ 試験問題については、特に指示のない限り、2022年4月1日現在施行の法令等に基づいて解答してください。なお、東日本大震災の被災者等に対する各種特例等については考慮しないものとします。
- ・ 次の各問について答えを1つ選び、その番号を解答用紙にマークしてください。

【第1問】下記の（問1）、（問2）について解答しなさい。

問1

ファイナンシャル・プランニング業務を行うに当たっては、関連業法を順守することが重要である。ファイナンシャル・プランナー（以下「FP」という）の行為に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 生命保険募集人、保険仲立人の登録を受けていないFPが、生命保険契約を検討している顧客のライフプランに基づき、必要保障額を具体的に試算し、相談料金を受け取った。
2. 投資助言・代理業の登録を受けていないFPが、顧客と投資顧問契約を締結し、当該契約に基づいて具体的な投資銘柄と投資タイミングについて有償で助言をした。
3. 税理士資格を有していないFPが、相続対策を検討している顧客に対し、一般的な相続税制度の仕組みと手順を解説し、相談料金を受け取った。

問2

下記は、神田家のキャッシュフロー表（一部抜粋）である。このキャッシュフロー表の空欄（ア）、（イ）にあてはまる数値の組み合わせとして、正しいものはどれか。なお、計算過程においては端数処理をせず計算し、計算結果については万円未満を四捨五入すること。

＜神田家のキャッシュフロー表＞

（単位：万円）

経過年数		基準年	1年	2年	3年	4年	
西暦（年）		2022	2023	2024	2025	2026	
家族・ 年齢	神田 智哉	本人	48歳	49歳	50歳	51歳	52歳
	菜莉子	妻	47歳	48歳	49歳	50歳	51歳
	奈穂	長女	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳
	寛翔	長男	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳
ライフイベント		変動率	住宅 リフォーム	寛翔 中学校入学	奈穂 高校入学		寛翔 高校入学
収入	給与収入（本人）	1%	496				
	給与収入（妻）	1%	478				
	収入合計	—	974	984	994	1,003	
支出	基本生活費	2%	380				（ア）
	住宅関連費	—	178	178	178	178	178
	教育費	—				120	
	保険料	—	57	57	57	65	65
	一時的支出	—	400				
	その他支出	—				36	36
	支出合計	—	1,119				
年間収支			▲145		177	201	
金融資産残高		1%	683	865	（イ）		1,418

※年齢および金融資産残高は各年12月31日現在のものとし、2022年を基準年とする。

※給与収入は可処分所得で記載している。

※記載されている数値は正しいものとする。

※問題作成の都合上、一部を空欄にしてある。

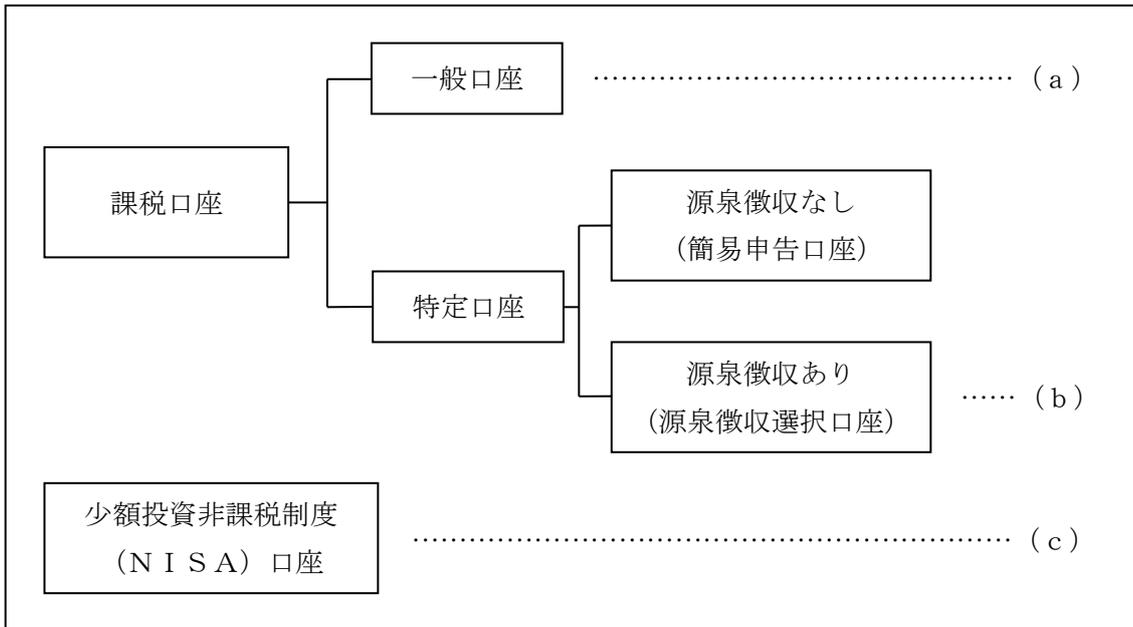
1. (ア) 410 (イ) 874
2. (ア) 411 (イ) 1,051
3. (ア) 420 (イ) 1,052

【第2問】下記の（問3）～（問5）について解答しなさい。

問3

下記＜証券口座の概要＞に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。なお、一般口座とは、課税口座のうち特定口座以外の口座をいうものとする。

＜証券口座の概要＞



1. (a) は、口座開設年の1月1日において成人でなければ開設できない。
2. (b) で売却した上場株式の所得は、いかなる場合でも確定申告はできない。
3. (c) で売却した上場株式の損失は、同年に (a) で売却した上場株式の所得と損益通算ができない。

問4

広尾さんは、預金保険制度の対象となるHA銀行の国内支店に下記<資料>の金融資産を預け入れている。仮に、HA銀行が破綻した場合、預金保険制度によって保護される金額として、正しいものはどれか。

<資料>

(単位：万円)	
普通預金	360
定期預金	220
外貨預金	120
株式投資信託	280

注1：広尾さんは、HA銀行から借入れをしていない。
注2：普通預金は決済用預金ではない。
注3：預金の利息については考慮しないこととする。
注4：HA銀行は過去1年以内に他行との合併等を行っていないこととする。

1. 580万円
2. 700万円
3. 860万円

問5

下記は、投資信託の費用についてまとめた表である。下表の空欄(ア)～(ウ)に入る語句として、最も適切なものはどれか。

投資信託の費用	主な内容
購入時手数料 (販売手数料)	購入時に支払う費用。投資信託の種類などにより費用は異なるが、同一の投資信託であれば購入時手数料は(ア)。
運用管理費用 (信託報酬)	運用のための費用や情報開示のための費用として徴収される。信託財産の残高から、(イ)、差し引かれる。
信託財産留保額	投資家間の公平性を保つために、一般的に、換金の際に徴収される。差し引かれた金額は、(ウ)。投資信託によっては差し引かれないものもある。

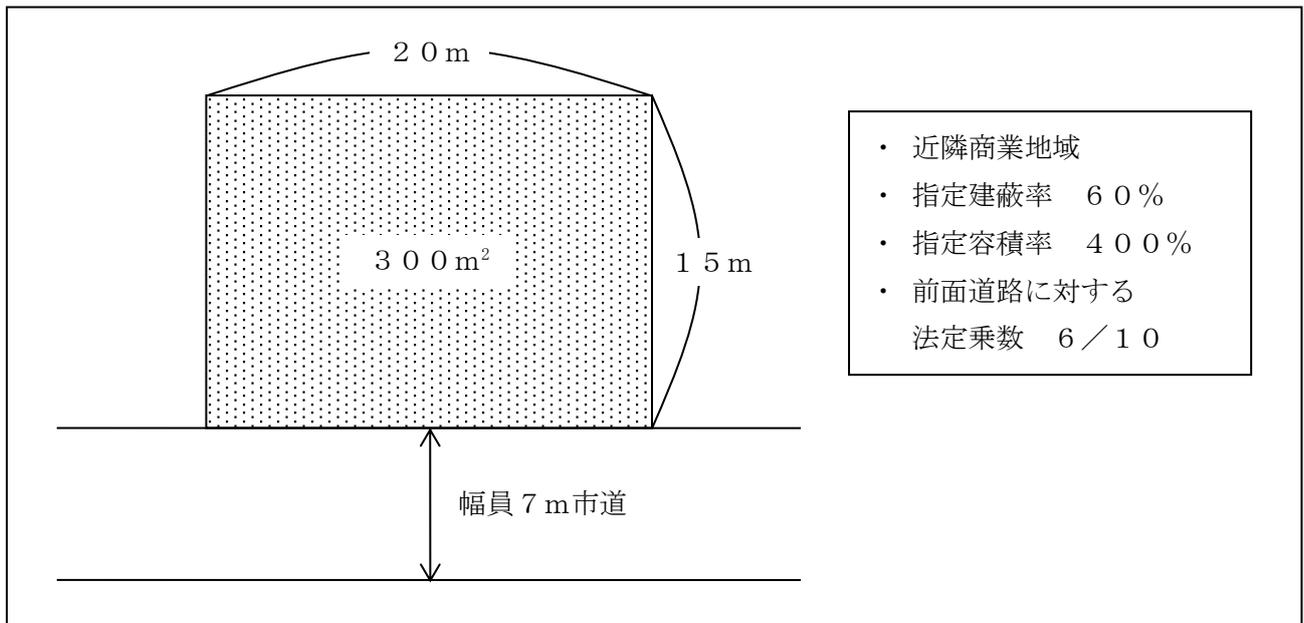
1. 空欄(ア)：「同額である」
2. 空欄(イ)：「毎日」
3. 空欄(ウ)：「委託会社(運用会社)が受け取る」

【第3問】下記の（問6）、（問7）について解答しなさい。

問6

建築基準法に従い、下記<資料>の土地に建築物を建築する場合の延べ面積（床面積の合計）の最高限度として、正しいものはどれか。なお、記載のない条件については一切考慮しないこととする。

<資料>



1. 180 m²
2. 1,200 m²
3. 1,260 m²

問7

不動産の取得・保有に係る税金について、下表の空欄（ア）～（ウ）にあてはまる語句の組み合わせとして、最も適切なものはどれか。

税の種類	登録免許税	不動産取得税	固定資産税
課税主体	（ア）	***	***
納税義務者	登記を受ける者	不動産の取得者	毎年（イ）現在の 固定資産の所有者
課税標準	***	（ウ）	***

※問題作成の都合上、一部を「***」としている。

1. （ア） 国 （イ） 4月1日 （ウ） 固定資産税評価額
2. （ア） 国 （イ） 1月1日 （ウ） 固定資産税評価額
3. （ア） 都道府県 （イ） 1月1日 （ウ） 相続税評価額

【第4問】下記の（問8）～（問10）について解答しなさい。

問8

横川浩さんが加入しているがん保険（下記＜資料＞参照）の保障内容に関する次の記述の空欄（ア）にあてはまる金額として、正しいものはどれか。なお、保険契約は有効に継続しているものとし、浩さんはこれまでに＜資料＞の保険から保険金および給付金を一度も受け取っていないものとする。

＜資料＞

保険証券記号番号 (〇〇〇) △△△△△		保険種類 がん保険 (愛称 *****)	
保険契約者	横川 浩 様	保険契約者印	◇契約日 (保険期間の始期) 2020年8月1日 ◇主契約の保険期間 終身 ◇主契約の保険料払込期間 終身払込
被保険者	横川 浩 様 契約年齢 48歳 男性		
受取人	(給付金) 被保険者 様 (死亡給付金) 横川 里穂 様 (妻)		
◆ご契約内容		◆お払い込みいただく合計保険料	
主契約 [本人型]	がん入院給付金 1日目から 日額10,000円 がん通院給付金 日額5,000円 がん診断給付金 初めてがんと診断されたとき 100万円 手術給付金 1回につき 手術の種類に応じてがん入院給付金 日額の10倍・20倍・40倍 死亡保険金 がん入院給付金日額の100倍 (が ん以外の死亡の場合は、がん入院給 付金日額の10倍)	毎回 ×, ×××円 [保険料払込方法] 月払い	

横川浩さんは、2022年4月に初めてがん（大腸がん、悪性新生物）と診断され、がんの治療のために21日間入院し、その間に手術（給付倍率40倍）を1回受け、退院4ヵ月後に肺炎で11日間入院（手術なし）した。2022年中に支払われる保険金および給付金は、合計（ア）である。

1. 610,000円
2. 1,610,000円
3. 1,720,000円

問9

牧村健太さんが2021年中に支払った生命保険の保険料は下記<資料>のとおりである。この場合の健太さんの2021年分の所得税の計算における生命保険料控除の金額として、正しいものはどれか。なお、<資料>の保険について、これまでに契約内容の変更はないものとする。また、2021年分の生命保険料控除額が最も多くなるように計算すること。

<資料>

<p>[定期保険（無配当、新生命保険料）] 契約日：2018年5月1日 保険契約者：牧村 健太 被保険者：牧村 健太 死亡保険金受取人：牧村 洋子（妻） 2021年の年間支払保険料：78,240円</p>

<p>[医療保険（無配当、介護医療保険料）] 契約日：2016年8月10日 保険契約者：牧村 健太 被保険者：牧村 健太 死亡保険金受取人：牧村 洋子（妻） 2021年の年間支払保険料：46,200円</p>

<所得税の一般の生命保険料控除、介護医療保険料控除および個人年金保険料控除の控除額の速算表>
 [2012年1月1日以降に締結した保険契約（新契約）等に係る控除額]

年間の支払保険料の合計		控除額
20,000円 以下		支払保険料の全額
20,000円 超	40,000円 以下	支払保険料×1/2+10,000円
40,000円 超	80,000円 以下	支払保険料×1/4+20,000円
80,000円 超		40,000円

(注) 支払保険料とは、その年に支払った金額から、その年に受けた剰余金や割戻金を差し引いた残りの金額をいう。

1. 39,560円
2. 40,000円
3. 71,110円

問10

浅田道弘さんが契約している任意加入の自動車保険の主な内容は、下記<資料>のとおりである。<資料>に基づく次の記述のうち、この契約で補償の対象とならないものはどれか。なお、いずれも保険期間中に発生したものであり、被保険自動車の運転者は道弘さんである。また、記載のない事項については一切考慮しないものとする。

<資料>

自動車保険証券		
保険契約者		
氏名 浅田 道弘 様	記名被保険者 (表示のない場合は契約者に同じ)	
保険期間	1年間	合計保険料 <u>△△, △△△円</u>
補償種目	保険金額	
車両保険 (一般条件)	80万円	
対人賠償	1名	無制限
対物賠償	1事故	無制限
人身傷害 (搭乗中のみ担保)	1名	5,000万円

1. 被保険自動車を運転中に、誤ってブロック塀に接触し、被保険自動車が破損した場合の修理費用
2. 被保険自動車に追突した相手車が逃走し、相手から補償が受けられない場合の道弘さんの治療費用
3. 被保険自動車を駐車場に駐車する際に、誘導中の妻に誤って車が接触しケガをさせた場合の治療費用

【第5問】下記の（問11）、（問12）について解答しなさい。

問11

山田さんは、別荘として利用していた土地および建物を売却する予定である。売却に係る状況が下記<資料>のとおりである場合、所得税における次の記述の空欄（ア）、（イ）にあてはまる数値または語句の組み合わせとして、最も適切なものはどれか。

<資料>

- ・ 取得日：2012年1月10日
- ・ 売却予定日：2022年9月30日
- ・ 譲渡価額：3,000万円
- ・ 購入価額：2,500万円
- ・ 取得費：2,000万円
- ・ 譲渡費用：200万円

※特別控除額はないものとする。

※所得控除は考慮しないものとする。

山田さんがこの土地および建物を売却した場合の譲渡所得の金額は（ア）万円となり、課税（イ）譲渡所得金額として扱われる。

1. （ア）300 （イ）短期
2. （ア）800 （イ）短期
3. （ア）800 （イ）長期

問 1 2

杉山さんは2022年中に勤務先を退職し、個人事業主として美容室を始めた。杉山さんの2022年分の各種所得の金額が下記<資料>のとおりである場合、杉山さんの2022年分の所得税における総所得金額として正しいものはどれか。なお、杉山さんの2022年中の所得は<資料>に記載されている所得以外にはないものとする。

<資料>

[杉山さんの2022年分の所得の金額]

事業所得の金額 360万円

給与所得の金額 200万円 (退職した勤務先から受給したもので、給与所得控除後の金額である)

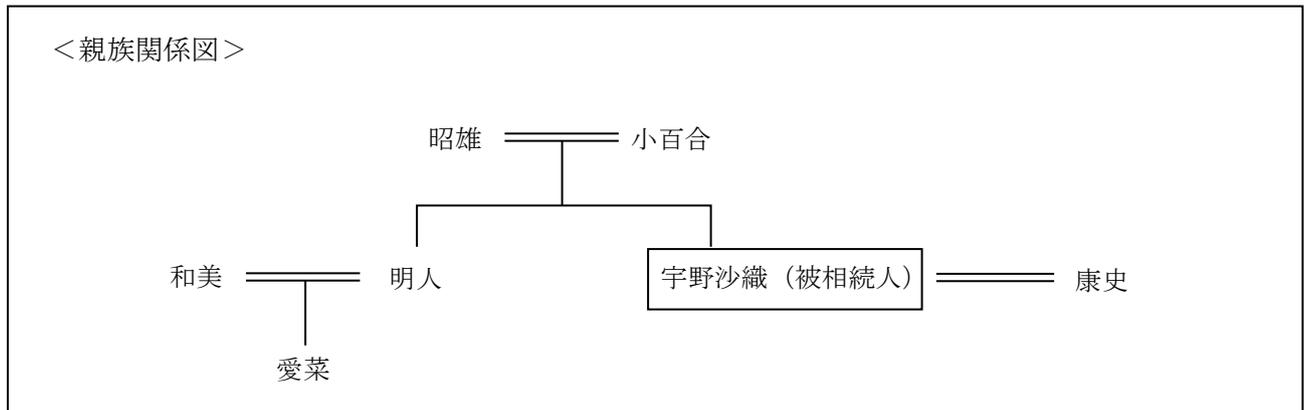
退職所得の金額 100万円 (退職した勤務先から受給したもので、退職所得控除後の残額の1/2相当額である)

1. 660万円
2. 560万円
3. 460万円

【第6問】下記の（問13）～（問15）について解答しなさい。

問13

2022年9月1日に相続が開始された宇野沙織さん（被相続人）の＜親族関係図＞が下記のとおりである場合、民法上の相続人および法定相続分の組み合わせとして、正しいものはどれか。なお、記載のない条件については一切考慮しないこととする。



1. 康史 1/2 昭雄 1/4 小百合 1/4
2. 康史 2/3 昭雄 1/6 小百合 1/6
3. 康史 2/3 明人 1/3

問14

妹尾勇二さん（78歳）は、将来発生するであろう自身の相続について、遺産分割等でのトラブルを防ぐために公正証書遺言の作成を検討しており、FPの塩谷さんに相談をした。公正証書遺言に関する塩谷さんの次の説明のうち、最も適切なものはどれか。

1. 「すでに作成した公正証書遺言を撤回したい場合、自筆証書遺言では撤回することはできません。」
2. 「公正証書遺言を作成する場合、証人の立会いは必要ありません。」
3. 「公正証書遺言を作成した場合、相続発生後、家庭裁判所に対してその検認を請求する必要はありません。」

問 15

細川亜実さん（32歳）が2022年中に贈与を受けた財産の価額と贈与者は以下のとおりである。亜実さんの2022年分の贈与税額として、正しいものはどれか。なお、2022年中において、亜実さんはこれ以外の財産の贈与を受けておらず、相続時精算課税制度は選択していないものとする。

- ・ 亜実さんの父からの贈与 現金400万円
 - ・ 亜実さんの祖母からの贈与 現金60万円
- ※上記の贈与は、住宅取得等資金や教育資金、結婚・子育てに係る資金の贈与ではない。

<贈与税の速算表>

(イ) 18歳以上の者が直系尊属から贈与を受けた財産の場合（特例贈与財産、特例税率）

基礎控除後の課税価格		税率	控除額
200万円 以下		10%	—
200万円 超	400万円 以下	15%	10万円
400万円 超	600万円 以下	20%	30万円
600万円 超	1,000万円 以下	30%	90万円
1,000万円 超	1,500万円 以下	40%	190万円
1,500万円 超	3,000万円 以下	45%	265万円
3,000万円 超	4,500万円 以下	50%	415万円
4,500万円 超		55%	640万円

(注) 「18歳以上の者」とあるのは、2022年3月31日以前の贈与により財産を取得した者の場合、「20歳以上の者」と読み替えるものとする。

(ロ) 上記(イ) 以外の場合（一般贈与財産、一般税率）

基礎控除後の課税価格		税率	控除額
200万円 以下		10%	—
200万円 超	300万円 以下	15%	10万円
300万円 超	400万円 以下	20%	25万円
400万円 超	600万円 以下	30%	65万円
600万円 超	1,000万円 以下	40%	125万円
1,000万円 超	1,500万円 以下	45%	175万円
1,500万円 超	3,000万円 以下	50%	250万円
3,000万円 超		55%	400万円

1. 425,000円
2. 620,000円
3. 730,000円

【第7問】下記の（問16）～（問20）について解答しなさい。

<設例>

藤原健吾さんは株式会社P Eに勤務する会社員である。健吾さんは今後の生活設計について、FPで税理士でもある馬場さんに相談をした。なお、下記のデータはいずれも2022年9月1日現在のものである。

[家族構成（同居家族）]

氏名	続柄	生年月日	年齢	職業
藤原 健吾	本人	1976年8月 4日	46歳	会社員
恵子	妻	1977年6月19日	45歳	専業主婦
詩音	長女	2003年5月 5日	19歳	大学生

[保有財産（時価）]

（単位：万円）

金融資産	
普通預金	280
定期預金	200
投資信託	240
個人向け国債	30
上場株式	430
生命保険（解約返戻金相当額）	40
不動産（自宅マンション）	2,800

[負債残高]

住宅ローン（自宅マンション）：2,100万円（債務者は健吾さん、団体信用生命保険付き）

[その他]

上記以外については、各設問において特に指定のない限り一切考慮しないものとする。

問16

F Pの馬場さんは、藤原家の2022年9月1日現在のバランスシートを作成した。下表の空欄（ア）にあてはまる金額として、正しいものはどれか。なお、＜設例＞に記載のあるデータに基づいて解答することとする。

＜藤原家のバランスシート＞

（単位：万円）

[資産]	×××	[負債]	×××
		負債合計	×××
		[純資産]	（ア）
資産合計	×××	負債・純資産合計	×××

1. 1,220（万円）
2. 1,920（万円）
3. 1,960（万円）

問17

健吾さんは、60歳で定年を迎えた後、公的年金の支給が始まる65歳までの5年間の生活資金に退職一時金の一部を充てようと考えている。仮に、退職一時金のうち600万円を年利1.0%で複利運用しながら5年間で均等に取り崩すこととした場合、毎年の生活資金に充てることができる最大金額として、正しいものはどれか。なお、下記＜資料＞の3つの係数の中から最も適切な係数を選択して計算し、解答に当たっては万円未満を切り捨てること。また、税金や記載のない事項については一切考慮しないこととする。

＜資料：係数早見表（年利1.0%）＞

	現価係数	資本回収係数	減債基金係数
5年	0.95147	0.20604	0.19604

*記載されている数値は正しいものとする。

1. 114万円
2. 117万円
3. 123万円

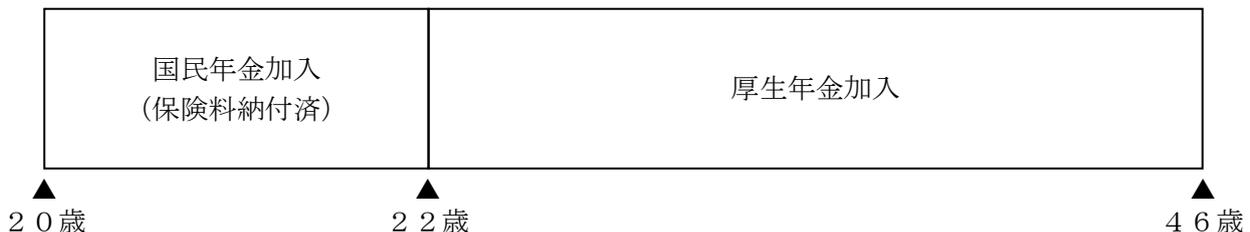
問18

健吾さんは、通常65歳から支給される老齢基礎年金および老齢厚生年金を繰り下げて受給できることを知り、FPの馬場さんに質問をした。老齢基礎年金および老齢厚生年金の繰下げ受給に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。なお、老齢基礎年金および老齢厚生年金の受給要件は満たしているものとする。

1. 老齢基礎年金および老齢厚生年金を繰り下げて受給した場合の年金額は、繰下げ年数1年当たり7%の割合で増額された額となる。
2. 老齢基礎年金と老齢厚生年金は、どちらか一方のみを繰り下げて受給することができる。
3. 老齢基礎年金および老齢厚生年金を繰り下げて受給した場合には、一生涯増額された年金を受給することになる。

問19

健吾さんの公的年金加入歴は下記のとおりである。仮に、健吾さんが現時点（46歳）で死亡した場合、健吾さんの死亡時点において妻の恵子さんに支給される公的年金の遺族給付に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。なお、健吾さんは、入社時（22歳）から死亡時まで厚生年金保険に加入しているものとし、遺族給付における生計維持要件は満たされているものとする。



1. 遺族基礎年金と中高齢寡婦加算額が加算された遺族厚生年金が支給される。
2. 遺族厚生年金と寡婦年金が支給される。
3. 中高齢寡婦加算額が加算された遺族厚生年金が支給される。

問20

健吾さんは、今後の資産運用に、NISA（少額投資非課税制度）またはつみたてNISA（非課税累積投資契約に係る少額投資非課税制度）を取り入れたいと考えており、FPの馬場さんに質問をした。NISAおよびつみたてNISAに関するFPの馬場さんの次の説明のうち、最も適切なものはどれか。

1. 「現在、取引のあるW証券にNISA口座を開設すれば、W証券で保有している投資信託については、そのまま移管することができます。」
2. 「NISAは、上場株式を投資対象とすることができます。」
3. 「つみたてNISAは、個人向け国債を投資対象とすることができます。」